

# 僕の好きな先生





## 「僕の好きな先生」

僕には、大好きな先生がいます。

その先生は、僕だけじゃなく、たくさんの子供と大人から愛されています。

先生の名前は「マツゲン」

## 新しい風

マツゲン先生は、新しく転勤してきた学校で、まだ生徒に紹介されていない4月2日からグラウンドに立っていました。陸上部の顧問として。

マツゲン先生は、部員と会えることを心待ちに、生徒が来る1時間以上も前から、1人で「草刈り」と「トンポかけ」をしていました。

その日から毎日、生徒より早くに来て、グラウンドの手入れをする先生の姿がありました。

4月6日、新3年生の男子が朝早くに来て、マツゲン先生と一緒に草刈りとトンポかけを始めました。

春の温かい陽差しの中、陸上部に芽吹いた新たな風でした。

## 熱い想い

マツゲン先生は、何度も何度も語ってくれました。

「この子たちに、この学校で良かったって思わせたいんや。」

「外からのウワサ。それに立ち向かい、絶対に屈することなく、母校に胸を張れる生徒を育てたいんや。」と。

先生の「熱」と「愛」は、生徒や職員や地域に伝染していきました。



## 中連体

4年ぶりに甲子園球場で再開された中連体。

マツゲン先生は、3年生男子の指揮者として甲子園球場に立っていました。

その子たちが1年生の時から、

「君たちが3年生になった時に、中連体が再開される。甲子園球場のど真ん中で演技をするのは君たちだ。」と先生は熱く伝えていました。

中連体のあと、先生はこのように書いています。

「4年ぶりに甲子園球場で再開された中連体。3年生にとっては、最初で最後の中連体だった。その指揮者ということで、直前になって私の緊張感はピークに達していた。そんなとき、スタンドから大きな声で私に声援がとんだ。十数年、中連体を経験してきたが、指揮者に大声で応援した学校は記憶にない。一気に心のスイッチが切り替わった。目が覚めるような勇気が心の底からわき上がってきた。私はここに1人で立っているんじゃない。3年生男子たち、そして学校の仲間全員と一緒になんだと。

無事に組立体操が終了し、退場するとき、足をケガしたF君を背負って退場する男子たちの姿があった。事前に『そんなことしたら、遅くなって後ろの学校に迷惑がかかるからやめとけ。』と忠告したにもかかわらず、内緒で実行したのだ。遅れないように、必死でF君を背負って走るS君。それを囲むように見守って、一緒に退場していく





仲間たち。私は、1年生のときからずっと、3年男子たちに言い続けてきた。『みんなで一緒にやることに何より意義がある。』彼らは最後の大舞台で、その教えを自分たちの意志によって忠実に守りぬいたのだ。」

## みんなが大切

マツゲン先生は、一人ひとりを本気で大切に想う人でした。

学校のエレベーターの使い方についてこう書いています。

「学校の新たな取組みとして、エレベーターをいつでも、必要な人が使用できるようにした。本来、2階や3階に行きたくても、階段だから行けない。このように、ハンデがあることが（車イスに乗っていることが）理由で、『あきらめなければならない』ことがあるならば、あきらめなくてもよい社会（学校）をつくるのが大切なのです。その人がどんなに努力してもできないものであれば、その人の責任ではなく、社会（学校）の責任でなければならぬのです。そのことは『どんな人にも』優しい社会(学校)を目指すということです。」

マツゲン先生が熱をもって構想し、作ってもらった「車イスに乗っていても、自分の力でステージに上れる木製スロープ」は、今も市内の学校で活躍しています。

## そうじ

こんなことも書いています。  
「ホウキを真剣に握っている姿。ゾーキンを素手でしっかりしぼっている姿。とても輝いて見えます。当たり前のことなのですが、あまりにも美しすぎて抱きしめたくくなります。ゴミを拾えなくなった心の汚れ、ゾーキンをしぼれなくなった心の汚れ、美しいものを美しいと判断できなくなった心の汚れは、どんなに洗っても落ちません。掃除をがんばった手の汚れは、洗えばすぐキレイになります。」



## 陸上を通して

「一念通天」～やってやれないことはない～を掲げ、マツゲン先生が率いる陸上部は、多くの生徒を育てました。

競技成績や記録を伸ばすことはもちろん、部員を「人」として成長（変化）させるマツゲン先生の周りには、子供も大人も集まります。

金髪で入学式にやってきたリュウ。大人に対して敵意むき出しだった彼。後の卒業文集にも「大人のことをあまり信用していませんでした。特に先生は信用できませんでした。」と書いています。

そんなリュウに、マツゲン先生は「陸上競技で人生を変えろ。」と声をかけました。

陸上部に入ったリュウの生活が急に変わったわけではなく、朝練では遅刻を繰り返し、うまくいかない時にはイライラし、友人や先生とのトラブルは続いていました。

マツゲン先生とリュウの間で何があり、なぜリュウが変わったのかは分かりません。

リュウは、卒業文集に「孤立していた私に、仲間ができました。」「私はこの先生を信用していた。人を信用できなかった私が、信用できたのだ。」と綴りました。



## 病気

マツゲン先生を病魔が襲った。

生徒を愛し、仲間を愛し、人を愛したマツゲン先生。

自宅で療養していたマツゲン先生。

意識がもうろうとし、目もはっきりと見えない中で、10分おきに車いすに乗せてもらうようお願いしたそうです。

車いすを少し動かしては、手で指示を出し、また別の場所に移動しては指示を出していたそうです。意識がはっきりしない中でも、先生は学校のグラウンドで、大好きな子供たちに陸上競技の指導をしていたのです。

次の日の朝、マツゲン先生は、車いすに座ったまま最期を迎えていたそうです。

## メッセージ

先生は、病気が分かり病魔が身体を蝕んでいく中で、学年のホワイトボードに、子供たちに向けてたくさんのメッセージを残しました。


人は出会いによって変わる 人は出会いによって生きていく 出会いを大切に

雨はやだなあ… でも 雨で 草木は喜んでいる いつも 黙って ボクたちに酸素をくれている草木  
そう思うと 雨も楽ちん♪  
考え方ひとつで 人生は楽しくなるんだな  
夢を持ち 夢の中で一生懸命生きることを 夢中になると言います。  
夢中になっている姿は美しい。  
どんなに小さくたっていい。自分にとって大切な夢を持つとう。

89人の夢をのせて 津南の空に ひとつ残らず あがった らんたんたちが  
オレに 生きろ!!と言っている。  
“降り続ける雨はない。吹き続ける風もない。きっといつか あなたにも  
あのらんたんのような 優しく力強い光が差しこむよ”

独りじゃ びくともしない大きな扉も みんなの力を合わせれば  
開くかもしれない。仲間ってそんなもんだろう。





純粹な心が生み出す 迷いのないまっすぐな表現力は  
見る者の心を爽快にします。  
人は成長するにつれ、周囲の目を気にするようになって  
自分らしい線を描けなくなってきています。  
バカにされてもええやんか。  
このへんで、なくしかけてる 自分らしい思いきった 線を描いてみないか。  
オレもまだまだ自分らしく、負けない人生の絵を描くぞ！！

結果より過程。形あるモノより形ないモノ。  
記録より記憶。世界中の誰もが忘れ去っても、オレだけは君の輝く姿を忘れ  
ないから。


1人で笑うより 2人で笑うほうが 楽しい。  
2人より 30人のほうが もっと楽しいはず。  
30人みんなが真剣になり、みんなで笑う。  
そんな2学期になればステキだなあ。

転んだら起きればいいや。

本当に強い人は優しい。

より寒い冬をのりこえた桜ほど 春にはキレイに咲くらしい。  
きみたちも、きっとそうだよ。

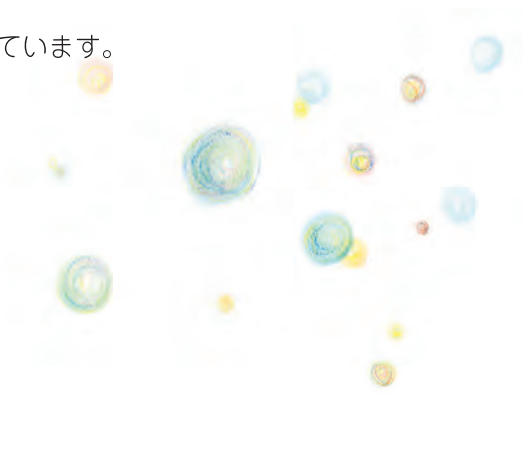




弱くなって 弱い人の気持ちがわかるようになったよ。  
どんな泥んこ道だって 歩いてみないと わからないモノがあるんだ。  
どんな道を行こうか、負けんなみんな

やっておいてよかった。  
やっておけばよかった。  
わずか2文字の違いだけれど、その差は果てしなく大きい。  
臆するな。やってやれないことはない。

みんなの大好きな先生は  
今もみんなの心の中にいてくれます。



本当強い人は  
優しい。



人権文化の花咲くまち 西宮をめざして 19

平成30年（2018年）3月発行  
西宮市・西宮市教育委員会

文・中津 洋平  
画・米光 智恵

## 人権擁護委員をご存じですか？

人権擁護委員は、地域の皆さんに人権について関心を持ってもらえるような啓発活動や、法務局・市役所の人権相談所において、地域の皆さんから人権相談を受け、問題解決のお手伝いをするなどの活動を行なっています。

また、電話では相談しにくい、勇気がいるなどといった子どもたちの気持ちに配慮した、手紙による『子どもの人権SOSミニレター』人権相談も行なっています。

## 法務省人権相談窓口

法務局西宮支局での人権相談 月曜から金曜の午前9時から午後4時まで  
問合せ先 ☎0798-26-0061

西宮市役所での人権相談 1階市民相談課 毎月第1・3木曜日  
(人権困りごと相談) 午後1時から4時まで(受付は3時30分まで)  
問合せ先 人権平和推進課  
☎0798-35-3320

子どもの人権SOSミニレター 問合せ先 子どもの人権110番  
☎0120-007-110・フリーダイヤル



アンブレカム「祈り・いつまでもあなたと一緒に」





平成30年（2018年）3月発行

編集：西宮市 人権平和推進課

〒662-8567 西宮市六湛寺町10番3号 ☎ (0798)35-3320